

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2022年1月18日

合資会社 PROGRESSIVE PARTNERSHIPS

「そのビールには愛とストーリーが満ちている」

研究者であり、居酒屋のマスター、そしてビアマイスター。アメリカから日本に来て4半世紀、愛とストーリーをビールに込め、コロナ禍を転機に、地域おこしに未来をかける代表取締役のクレグ・モーリー氏に話を聞いた。

Company Data

会社名：合資会社 PROGRESSIVE PARTNERSHIPS

代表者：クレグ・モーリー

住所：岡崎市明大寺町西郷中 39-6

電話：090-4865-2960

URL：<https://hyappabrews.wixsite.com/hyappabrews>

紹介金融機関：蒲郡信用金庫



人と人の縁を大事にアメリカから岡崎に

私はアメリカのシカゴで生まれ幼少期を過ごしました。青春時代は、同世代のアメリカの若者達と同じく、スポーツやバンド活動に熱中しました。

ハワイ大学で魚の性転換を研究しているとき、指導教官同士が旧知の仲ということで、日本人研究者と共同研究をしました。共同研究発表後、その縁で来日し岡崎共通研究施設内の基礎生物学研究所で4年間研究生生活をおくりました。

博士号取得後、研究所近くの居酒屋のオーナーとご縁ができました。そのオーナーから居酒屋経営ができなくなったと相談を受けたのが全ての始まりでした。

オーナーの代わりに居酒屋を切り盛りし、その後オーナーの実家がある岡崎に移り住むことになりました。

言葉遊びとブランドストーリーを大事に

経営している東岡崎駅前の居酒屋「Izakaya Ja Nai!!」が、2008年のリーマン・ショックで景気悪化の影響を受け、居酒屋経営が難しくなりました。そこで価格競争に巻き込まれず、付加価値のあるものを作りたいと思い、クラフトビールを事業化することを考えました。1994年の規制緩和を機に地ビールはブームになりましたが、リーマン・ショック時にはブームも終わり、地ビールの市場は縮小していました。そのような経緯から、酒税免許の申請が少なくなり、2013年にビールの酒造免許を申請したのは数社程度と聞いています。醸造機は、知り合いの浜松の企業より安価に譲ってもらい同年から「HYAPPA BREWS（ヒヤッパ・ブリューズ）」の事業を開始致しました。

醸造所名の「HYAPPA BREWS」は当社の理念「一滴一滴 愛 100%」の「100%=ひゃっぱ」が由来です。

言葉遊びを大事にしている当社では、ブランドストーリーもとても大事にしています。例えば主力商品の「家康 B」は、ビールスタイル「ESB」（エクストラ・スペシャルビター）と音が似ていることと、地元ゆかりの武将「徳川家康」をひっかけています。家康 B には、家康が好んだ霊芝を味のアクセントに加えています。イラストは三方ヶ原の合戦で敗れた家康が自らの戒めのために描かせたと伝わる肖像画をモチーフに、知人のイラストレーターがアレンジしたものです。各ビールのラベルにブランドのストーリーが印刷してあるので、酔いが回る前に読んでもらえるとうれしいです。



こうした当社のビールは製造当初、東岡崎で私が経営する居酒屋でのみ提供していました。その後評判から、地元百貨店で「地元産ギフト」としての販売や音楽フェスでの出店などにより、販路を拡大してまいりました。

六次産業化へ新たな挑戦

現在コロナの収束がなかなか見通せない中ですが、次を見据えて動き出しています。原材料の生産から販売まで一環で行う、6次産業化への挑戦です。

例えば、地元の農作放棄地などを活用し麦を作り、ビールやパンに加工する計画を考えています。三河は昔、麦畑が多く、地元の人々は作った麦を工場に持ち込み、出来上がったパンをもらうというのが馴染みの風景だったそうです。その風景を復活させる挑戦です。



また、ビールを造るときに出る麦芽の「カス」の利用も考えています。健康志向のパン作りや、家畜のエサにしてチーズや牛乳をもらうといったアップサイクルの取り組みをサプライチェーンとして確立できれば、地元業界にも役に立つと考えています。

All you need is love

私にとって会社の基本の考え方は「愛」です。動物は愛がなくても生きていけますが、人間には愛が必要です。愛を生活や文化の中で語ると難しくなりがちですが、事業と組み合わせれば伝わりやすい、そんな思いで作った私達の製品が人と人を繋いでくれればいいと思います。